

## 105) 樹上生活

我輩の子供の頃は、まだ日本中が貧しい時代で、遊び道具とて大したものはなく、よく木に登ってターザンごっこをしておりました。田舎生まれだった我輩は、隣の家の子ノ木にターザンの小屋なんぞを作りまして、近所の悪ガキを集めてそこで一日の大半を過ごしていたのであります。ところがある日ちよいとデブの友達が、はるばるこのターザン小屋に遊びにやってきて、こいつを含めて4人で、ターザン小屋に集まったものですから、何かの拍子に枝が折れて、デブは真っ逆様に地上に落下し、あとの二人は身軽にも他の枝に掴まって難を逃れたのであります。それで我輩はというと、どこでどう間違えたのか、折れた枝先にパンツが引っかかって、そのまま宙吊りになってしまったのであります。イヤその格好の悪いこと。この災難をもたらした元凶でありますデブまでが、我輩の惨めな格好を見て笑っているのであります。そのうちに我が初恋の葉子ちゃんまで何事かとやってきて、亀の子状態になってぶら下がっている、我輩の姿を見てお腹をかかえて笑っているではありませんか。恥ずかしいやら悔しいやらで、このデブとは二度と口を利かないぞと思ったのであります。不思議なことにこれが縁で、葉子ちゃんとは急に親しくなったのであります。何が禍し、何が福をもたらすか、分からないと言うのが人生であることを、この時我輩は早くも悟ったのであります。